

子連れ留学，子育て留学



鎌倉義士

私は2017年度に勤務校から派遣され、イギリス・バーミンガム市にある母校にて在外研修を行った。7年前の学生時代とは異なり、今回は息子と娘を連れて約1年の家族でのイギリス暮らしである。博士課程在籍時の7年間は妻が現地のカフェや日本人学校で働き、私の学業を支えてくれた。知人がまだ残り勝手知ったる土地とはいえ、7歳と2歳の子供を連れての生活は、夫婦二人だけの以前の暮らしとは異なった。

まず、ビザ申請で失敗した。Brexitの影響もあり、申請方法が以前取得した学生ビザより複雑になった。4月の出発予定が遅れ、息子は日本の小学校の入学式に急遽出席し、ひと月通っただけで1年生の級友とお別れすることになった。私は学内で会う学生と職員に出発延期の理由を繰り返し説明するのに疲れ果てた。

ようやく出発の目処がたったものの、次は息子の小学校探しで苦労した。住居を契約しなければ現地の小学校に出願できず、渡英の数か月前には契約を済ませた。イギリスでの4月は学年度の途中にあたり、市役所に相談をしても10校から受け入れ拒否のメールを受信した。日本とは異なり、公立校の生徒数に制限があり、定数以上は受け入れない慣習に驚いた。バーミンガムに到着し郵便ポストを見ると、近隣の小学校から欠員による入学許可の報告を手にして家族で喜んだ。

息子はイギリスに来る数年前から英語を学び、現地での生活準備をしていたが、現実とは異なり大変だった。学年度が半年異なるのはよく知られているが、さらにイギリスは5歳に小学校に入学する。日本で小学1年生の息子がイギリスではYear 3である。突然の英語による3年生の授業に息子はついていけず、当初は、授業中ひとりでタブレットを見るという寂しい思いをさせてしまい、留学を後悔したこともある。

イギリスの小学校はある年齢までは、保護者による送り迎えが必須となる。小学校の周りには、午前9時と午後3時に送迎の車で渋滞が起きる。帰宅後は息子と2人で学校の宿題に取り組んだ。毎日の朗読が英語の上達に役立った。そして、現地で公文式に通ったことで、算数は負けない自信を持った。英語ではフォニクスを学んだことで、意味は分からずとも読んで発音できるため、授業内の朗読に挙手するようになった。

対して、2歳の娘は気楽なものである。大学附属の保育園に通い、その教室を先生の名前である Jessy! と呼ぶまで大好きになった。頭が痛いのは保育料であり、大学スタッフとして値引きがあると聞いたが、週2日半で月約10万円は英語を学ぶ授業料込みだと納得するしかなかった。しかし、保育園でのクリームたっぷりの給食は娘の口には合わなかったようである。

家族でのイギリスでの暮らしを無駄だとは思わない。イギリスの小学校と幼稚園の様子を知ることができた。小学校の仮装による登校日のために、衣装を探しに街中を車を飛ばして走り回った。幼稚園では様々な国々からのパパ友やママ友と知り合い、子育て習慣の違いを学んだ。帰国後もイギリス生活の名残りは続く。英語学習における息子の強みはフォニクスを習得したことである。現在も初見の単語や文でも発音と音読は可能である。娘は帰国後もイギリスで購入したDVDを喜んで見ている。言葉の端々にも英単語が現れ、時に英語もしくは英語らしき言語で話している。7歳と2歳という臨界期前の英語圏での生活は、息子と娘にどのような影響を残すだろうか。彼らが成長し、このイギリスで暮らした経験を将来どう活かすのかは、親として研究者として楽しみである。

(かまくら よしひと・愛知大学准教授)

英語入試と大学入試センターの役割

大杉住子



■実施方針に基づくセンターの2つの役割

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という）に向けた準備は、文科省が昨年7月に公表した「大学入学共通テスト実施方針」に基づき進められている。外国語科の科目のうち「英語」については、実施方針の公表に先立つ昨年5月、民間の試験実施団体が実施する資格・検定試験の活用に2020年度から一本化するか（A案）、大学入試センター（以下「センター」という）が作問・実施する英語試験も実施し民間の資格・検定試験と併用できることとするか（B案）の2案を提示し意見募集を行った。その結果、制度の大幅な変更への影響を考慮したB案が支持を集め、2020年度から2023年度までの枠組みとして、センターが問題を作成し実施する試験と、民間の資格・検定試験とのいずれか又は双方を各大学が利用できることとなった。

これに基づき、センターは2020年度から、共通テストの英語の問題を作問・実施するという役割に加えて、受験生から申出のあった回の資格・検定試験の成績を一元的に集約し、大学等に対して提供する「大学入試英語成績提供システム」（以下「成績提供システム」という）の設置・運営という新たな役割を担うことになる。

■成績提供システムの目的

実施方針では、大学入学者選抜において「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を適切に評価するため、共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定

の評価が定着している資格・検定試験を活用することが示されている。この方式を実施するには、受験生の個人情報を含む、少なくとも年間数十万件以上に上る大量の情報を、誤りや事故等が生じないよう適切かつ厳格に集約・管理・提供する必要があり、こうした業務を安定的に実施できる仕組みの構築が不可欠である。

これを具体化するための仕組みとして設けられるのがこの成績提供システムであり、一定の参加要件を満たすことが確認され、試験実施主体とセンターとの間で協定書が取り交わされた資格・検定試験について、受験生から大学への成績送付の依頼があった回の成績情報（電子データ）をセンターが一元的に集約し、要請のあった利用大学に対し提供するものである。

■成績提供システム活用の利点

このシステムを活用することの利点として、次のような4点が挙げられるだろう。

・情報の適切かつ厳格な集約・管理・提供

大学入学者選抜において資格・検定試験の結果を活用するにあたっては、受験生の個人情報を含む大量の情報を、適切かつ厳格に集約・管理・提供する必要がある。成績提供システムを構築することにより、こうした業務を安定的に実施することができる。

・受験生の成績証明書取得等の負担軽減

大学入学者選抜において資格・検定試験の結果を活用する大学に出願する受験生は、志望する大学・学部等ごとに資格・検定試験実施主体（以下

「試験実施主体」)に成績証明書の発行を請求し受領した上で、それを各大学に提出する必要がある。成績提供システムを活用することにより、これらの出願に係る負担が軽減されることになる。

・高校等における在学者の受検状況の把握

高校等においては、指導に当たり、在学者がどの資格・検定試験を受検しているのかを把握した場合に、それぞれの在学者に個別に確認をする必要がある。成績提供システムを活用することにより、在学者がどの資格・検定試験を受検したのかを把握することができる。

・大学の事務作業の効率化

大学入学者選抜において資格・検定試験の結果を活用する大学では、受験生が各試験実施主体から取得して大学に提出する成績証明書の確認・督促、当該成績情報の入力作業等を行う必要がある。成績提供システムを活用することにより、これらの事務作業が縮減される。

■成績提供の対象

成績提供システムにより集約・提供する成績情報は、大学を受験する当該年度の4～12月に受検した資格・検定試験に係るものが対象となる。ただし、「大学入学共通テスト実施方針（追加分）」（平成30年8月文部科学省公表）において例外措置が示されているので御確認いただきたい。資格・検定試験の受検の際に、センターからあらかじめ個人ごとに発行されたIDを記載することにより、試験実施団体からセンターにその回の成績が自動的に送付され、大学に提供される。

提供する成績は、各試験の実施主体が定めるスコア（バンド表示も含む）と、CEFRの段階別表示、合否がある場合はその合否を基本とすることとしている。こうした成績提供システムの詳細については、近々通知を発出させていただけるよう準備を進めている。

■参加要件を満たした資格・検定試験とCEFR

システムへの参加要件は、①法人であること、継続性のある組織・経営体制があることといった「資格・検定試験実施主体に関する要件」、②入試等における活用実績や、学習指導要領との整合性、CEFRとの対応関係と検証方法等の公表、全国各地域での実施体制の確保、障害等のある受験生への合理的な配慮、試験監督及び採点の公平性・公正性や採点の質を確保するための方策の公表といった「資格・検定試験に関する要件」、③外部の者が参画した評価の実施、参加要件に関わる情報の公開といった「情報公開、第三者評価等の要件」、④その他センターとの協定書の遵守等に関わることで構成されている。

昨年末にこの参加要件を公表してシステムへの参加募集を行い、センターに設置された「大学入試英語成績提供システム運営委員会」において専門的な見地から確認を行った。なお、この参加要件の確認作業や確認を受けた試験について、実施方針においては「認定」「認定試験」といった言葉が使われているが、いわゆる法的根拠に基づく「認定」行為とは異なることから、誤解が生じないよう「認定」ではなく「確認」と呼ぶこととしている。

文部科学省からは同時に、これらの試験とCEFRとの対照表も公表された。CEFRは基礎段階の言語使用者から熟達した言語使用者まで、A1からC2までの6段階の参照レベルを示している。新しい学習指導要領の外国語科では、「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から、CEFRを参考に小・中・高等学校で一貫した教育目標が設定されたところである。

CEFRと資格・検定試験の対応関係は、欧州評議会が定めた体制や方法等に則って検証を行うことが求められている。対照表の作成に当たっては、各実施団体から提出された資料に基づく検証体制や検証方法等の確認を文科省において行った。この対照表には附属資料としてCEFRの解

説や対応関係の検証体制・検証方法等も添付されている。なお、CEFRについては、段階が追加された companion volume が2月に公表された。現在はあくまで補遺版との位置づけだが、こちらの活用が主流となれば対照表も併せて改訂が検討されることになるだろう。

対照表にある数値は各試験結果のスコアを示している。級別などの複数の試験から構成されている試験は、それぞれの試験が測定できる能力の範囲が定められているので、対照表を注意深くご覧いただきたい。

■高校における指導とのつながり

民間の資格・検定試験については、特定の受験対策で成績が伸びるのではないかという受け止めもある。試験への慣れや準備による練習効果がプラスに働く面は否定できないものの、土台となる確かな英語力なしにとられた試験対策の効果は、すぐに頭打ちとなるとも言われている。受験前の生徒の努力を底支えするためにも、日常の授業を通じた英語力の向上こそが重要であろう。

資格・検定試験は総合的な英語力の伸びの把握に資するが、その結果だけでは日々の学習指導の成果は捉えにくい。単元や学期ごとに指導のねらいに即した評価を行い、結果をフィードバックし改善を図っていくことが、受験期はもちろんその後の学習に求められる英語力を鍛えることにつながるものと考えられる。

■センターが実施する英語試験について

2023年度までの継続が決定されている、センターが作問・実施する英語試験について、本年2月に実施した試行調査の結果を踏まえ検討されている問題作成の方向性と本年11月に実施する2回目の試行調査の問題作成方針は次の通りである。
・「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、筆記（リーディング・マーク式）とリスニング（マーク式）を課す。CEFRを参考

に、A1からB1までの問題を組み合わせで出題。

- ・筆記（リーディング）については、英語の資格・検定試験の活用を通じて「話すこと」「書くこと」を含めた総合的な評価がなされる方針であることを踏まえ、試行調査の筆記（リーディング）の問題では「読むこと」の力を把握することを目的とし、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題せず実施し検証。
- ・リスニングの音声については、アメリカ英語以外の読み上げ（イギリス英語や英語を母語としない話者による読み上げ）も行う。資格・検定試験における英語のリスニング試験における一般的な在り方や平成29年度の試行調査の結果を踏まえ、1回読みと2回読みが混在する構成で実施し、試行調査を通じて検証。
- ・英語教育改革の方向性の中で各技能の能力をバランスよく把握することが求められていることや、多くの英語の資格・検定試験で各技能の配点が均等となっている状況を踏まえ、試行調査においては、「筆記（リーディング）」「リスニング」の配点を均等として実施し検証。いずれにしても、各大学の入学選抜において具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかは各大学の判断によることとなる。

■大学のアドミッション・ポリシーと英語試験

国立大学協会は3月30日付で、国立大学共通の指針となる「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題の活用に関するガイドライン」を取りまとめ、6月12日付で活用の参考例を示した。入試において課される教科・科目の大きな変更等については、2年程度前には予告・公表するとされていることから、各大学の活用方法も年度末に向けてより明確になっていくものと見込まれる。ぜひ、各大学のアドミッション・ポリシーがどのような力を求めているのかと併せて注目していただきたい。

（おおすぎ すみこ・大学入試センター審議役）

変わる大学入試に向けて、 どう備えるか



佐藤雄太郎

■「新テスト」～新しい共通テスト

2013年に「達成度テスト（発展）」の仮称で検討が始まった、大学入試センター試験に代わる新しいタイプの共通テストは、2014年12月の中央教育審議会答申のなかで、「大学入学希望者学力テスト（仮称）」という名称を経て、2017年7月には「大学入学共通テスト」として正式に決定し、2020年度（2021年1月）から実施されます。さまざまな議論を経て、「大学入学共通テスト（以下、共通テスト）」では、記述式と英語4技能評価を導入することで話がまとまっています。

■新しい制度による大学入試の英語

さて、ここから「大学入試の英語」という点に話を絞ります。新しい制度による大学入試の英語は、「読む・聞く・話す・書くの4技能を適切に評価すること」を原則としています（2017年7月13日文部科学省公表「『大学入学共通テスト』実施方針」）。現行の大学入試においては、「大学入試センター試験（以下、センター試験）」を含め、2技能（読む・聞く）、あるいは3技能（読む・聞く・書く）で測ることが主流になっていますが、2020年度（2021年度入学者選抜）からは、これらに「話す」を加え、4技能で評価することになります。2021年1月に実施される「共通テスト」も、英語を4技能で評価することになります。ただし、共通テストで実施する場合、50万人近い受験者に対して、一斉実施することが、（現在は）技術的に困難であることから、「民間団体による英語4技能資格・検定試験／テスト（以下、外部試

験）」が活用されます。現行の大学入試においても外部試験は活用されており、一般入試で活用する大学も増えています。そうした実績もあって、2020年度からの大学入試では、民間団体のものが活用されます。

外部試験の活用にあたって、現在の入試では、大学それぞれの考えや判断に基づいて活用していますが、“共通試験”となれば、センター試験のように、国が定めるルールが必要です。そのルールとは主に、①外部試験の成績のみを大学に提供（＝英語成績提供システムの構築）、②大学入試センター（国）が定めた条件に合致する外部試験を採用する（＝認定試験）、③大学への成績提供は「高3生の4月から12月までの2回（事前申請が必要）」とする、ことがあげられます。要するに、“国が認定した外部試験の成績だけを活用する方法を採用し、受験学年である高3生に限って大学に提供できるルール”として定め、「共通テスト」で活用しようというわけです。したがって、「共通テスト」として外部試験を受検する場合は、前述のルールに従って受検しなければならない、例えば、高1や高2に受検したスコア等は、「共通テスト」においては「活用できない」ということになります。

一方、個別入試（各大学が独自に行う入試）でも、4技能で評価することになりますが、「共通テスト」の事情と同じく、現行入試では、独自に4技能試験を作問している大学はほぼ無く、ほとんどが外部試験を活用している状況です。そのため、各大学でも外部試験を活用することが予想さ

読む・聞く・話す・書くの4技能を適切に評価することを原則とする	
大学入学 共通テスト	共通タイプの2技能試験（「読む」「聞く」） ・大学入試センターが作成する2技能試験（「筆記（リーディング）」、「リスニング」） ・間接評価（発音・アクセント、整序等）を減らす方針 ・リスニングは、「アメリカ英語」のスピーカーとは限らない
	民間資格・検定試験（「読む」「聞く」「書く」「話す」） ・外部試験の成績を大学に提供する制度▶実施主体は民間団体 ・7団体24試験が成績提供として活用される（2018年8月27日現在） ・スコアとCEFRに対応した段階別表示を大学に提供 ・高3の4～12月に受検した成績結果の2回のみ大学に提出可 ・成績結果の入試利用は事前申請が必要
個別選抜	各大学が独自に課す民間資格・検定試験 ・共通テスト枠以外で活用する方法（スコア期限、部分利用等は各大学が決める） ・TEAPを利用した入試（早稲田大、上智大、青山学院大、立教大、関西大・・・）
	各大学が独自で作成した試験 ・国公立の2次試験、私大試験

表 2020年度以降の英語大学入試

れますが、ここで注意すべきは、個別入試で行う場合は、必ずしも《「共通テスト」と同じルールではない》という点にあります。つまり、各大学、特に私立大学は、それぞれの「入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシーとも言います）」がありますので、ここは、大学それぞれのルールに基づいて実施されることになります。したがって、「共通テスト」では高3生の成績しか活用できませんが、各大学が課す場合、“高2の成績でもよい”という可能性があります（現行入試においては、成績が2年間有効とする場合が多いです）。外部試験を受検する場合は、「共通テスト」なのか、「個別入試」なのか、いう点に注目しながら、受験に臨む必要があります。

なお、外部試験を活用しない、英語の試験については、いくつか種類があります。「共通テスト」では、外部試験を活用しますが、2023年度までは、現行のセンター試験で行われているような「筆記」（いわゆるセンター英語と言われるもの）と「リスニング」の2技能試験が継続して行われます（問題は、現在と同様に、大学入試センターが作成します）。また、各大学が作成する個別試験（いわゆる国公立2次試験や私大の入試）では、4技能よりも、現行通り、2技能または3技能を測る問題が多くなると予想されます。

したがって、2020年度からの大学入試では、受験する英語試験の種類が増えることになります。例えば、国立大と私立大を併願する受験生は、①

共通テスト（2技能試験）、②外部試験（国が認定した試験）、③国立2次試験、④私大入試と少なくとも4種類を受験しなければなりません。前述の通り、「共通テスト」として外部試験を受検する場合は、高3生のみという制限がありますので、英語については、これまで以上に、計画的に学習を進める必要がありそうです。

■外部試験と大学入試の学習方法は同じなのか

高校3年間で、効率よく学習を進めるといっても、限られた時間の中で行なわなければならない、全てを一気に行うことは難しいと思われます。だからこそ、計画的な学習ということになるのですが、そもそも外部試験と大学入試で求められているものは、同じなのでしょう。答えは「No」と言えます。その理由の1つとして、外部試験は、そもそも「英語が正しく運用できているかどうか、活用できているかどうか」を測る試験／テストですので、到達レベルが明確に設定されています。一方、大学入試の場合、「選抜」として作られているため、《到達できるか》というよりも、《志望する（自分の）大学が求める学力像にマッチするかどうか》が重視されます。そのため、バランスよく出題されるとは限りません。出題の狙いも大学によって様々です。外部試験の場合、提供する民間団体の出題方針や目的（例えば、留学で使うのか、ビジネス英語の能力を測るのか、など）により、多少異なりますが、4技能をバランスよく測る、という点では、どの試験／テストも共通するところがあります。しかし、大学入試の場合は、前述のように「バランスが良い」とは限りませんので、その点を踏まえて学習に臨む必要があります。

ただし、英語を学習するという点では、現在も新制度になっても変わらないと言えます。また、外部試験も大学入試も、それぞれの対策が必要になるとはいえ、文法や語彙を知識として十分に蓄えるといった、いわゆる「基礎学力」はどの試験

／テストでも共通事項と言えるでしょう。

■外部試験の受験は一通りではない

現在（2018年9月現在）、2021年度入試について、国立大学を中心に少しずつ公表されていますが、外部試験の活用については、ほとんどの大学で具体的な公表を行っていません。ただ、国立大学では、「共通テスト」の英語について方針（※1）を示しており、『2技能試験と外部試験の両方を必須として課す』としています。外部試験の活用としては、①出願資格、②CEFR〔セフアール、セファール〕（※2）対照表に基づき、共通テストの英語試験の得点に加算、③①と②の組合せで判定するとしており、①の場合、CEFRのA2以上を1つの目安としています。一方、公立大学は、国立大の方針にできるだけ準ずるとあり、『2技能試験と外部試験の両方を課す』場合もありそうです。また、私立大学は、各大学の考え方があるため、「大学それぞれの判断による」としています。

現在の大学入試において、外部試験を活用する大学（一般、推薦、AO入試のいずれかで外部試験を活用する大学）は、全大学の概ね50%程度です。利活用する大学のうち、概ね70%近くは、3種類以上の資格・検定試験を選択しています。「共通テスト」で採用された外部試験は7団体24試験ですが、大学入試センターも、公表資料のなかで、できるだけ受験生に不利な条件とならないよう、多くの試験を採用するように、としています。もっとも、場所によっては、（会場数の確保等の関係から）受験できる／できない試験があると思います。

しかし、これから考えなければならないことは、外部試験の「受験の仕方」です。というのも、『高3生の4～12月の間に2回だけ提出できる』のは、共通テストの枠内で受検する場合です。現行の入試のように、独自の英語試験の代わりに、外部試験を活用する場合（特に私立大の一

般入試）は、高3生の成績とは限らず、高2からの成績が活用できる場合もあり、外部試験については、受験の仕方が複雑になります。そのため、これからは、志望大学によって受験方法が異なるため、それぞれの大学が「どのような受験方法なのか」をよく知ったうえで、受験に臨む必要があります。加えて、国公立の2次試験や私大試験の対策もしなければなりませんので、より計画的な学習が求められると言えます。

■最後に

2020年度からスタートする新制度入試は、まだまだ見えない部分が多いため、不安に思われる方も多いのではないかと思います。東大をはじめ、少しずつですが、各大学が2020年度（2021年度入試）からの入試情報を公表しはじめています。また、学習方法という面では、志望大学によっては、外部試験を受検しなければなりませんが、「共通テスト」の場合、一定のルールに基づいたものですし、共通テストや外部試験以外、国公立2次や私大入試については、これまで通りの学習が求められます。前述の通り、これまでの入試よりも、少しだけ早い準備が必要となりますが、学校の授業と家庭学習の時間を上手く利用して、計画的な学習を進める点では、いままでの入試勉強と何ら変わりありません。正しい情報を得ながら、計画的な学習を心掛けていただければと思います。

（※1） 2018年3月30日「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題の活用に関するガイドライン」

2018年6月12日「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題（国語）の活用にあたっての参考例等について」

（※2） CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）とは、外国語運用能力等の評価のために、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定されたものである。

（さとう ゆうたろう・代々木ゼミナール教育総合研究所所長）

文法・語法の理解を「正しく伝える」ために 『ジーニアス総合英語』を活用する

山岡憲史



新学習指導要領と4技能入試

2018年3月に、高等学校の新学習指導要領が告示され、2022年から年次進行で実施されることになった。今回の改定では、現行のものよりさらに発信力に重点を置き、「話すこと」「書くこと」と「発表」の2つの領域に分けている。「書くこと」においても、それぞれの科目の目標の中で、「使用する語句や文、事前の準備などにおいて」「基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする」のような、かなり踏み込んだ書き方が見られる。

英語教育が大きく変わろうとしているもう一つの原動力は、2020年導入予定の「英語4技能検定」である。民間の試験を活用し、英語の「話す」「書く」能力も入試の合否を左右することになる。

文法をどう扱うか？

指導の重点や制度がどのように変わっても、英語の発信力を養成するための文法力の重要性が薄らぐことはない。新学習指導要領における文法の扱いは現行のものを踏襲し、「コミュニケーションを支えるもの」「用語や用法の区別などが指導の中心となったりしないよう配慮し、使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導を工夫すること」を求めているが、単に規則を学ばせ演習をするだけの指導から、文法の機能や使用場面を十分に意識し、英語でコミュニケーションをする際に活用できる

力を養う指導が今以上に大切になってくるだろう。

その一方で、各科目を指導する際に、どのように文法指導を位置づけ、生徒に学習をさせるかがますます大きな課題となる。教科書の語数が増え、言語活動も高度なものが要求されるなかで、文法指導に特化した時間を持つのは極めて難しい。そこで提案したいのは、実際に表現をさせ、その都度、総合英語の参考書の該当箇所を参照して読ませることである。『ジーニアス総合英語』（以下、『G総合』）の解説は簡潔・明瞭であり、実際に使う観点で書かれているので、生徒にとってコミュニケーションの基礎力をつける有益な情報を得られることであろう。

コミュニケーション志向の『G総合』

総合英語の参考書の役割は、文法の形式(form)とその意味(meaning)を丁寧に解説することにある。また、それぞれの形式がどうしてそのような意味を表すのかについての理解を促す工夫、用法(usage)についての説明、例外や補足的な事項の追記などを規範的に施すのが常である。『G総合』の大きな特徴は、これらに加え、コミュニケーションに有用な『ジーニアス英和辞典』の持つ語法解説への徹底的な配慮にある。

(1) 間違いやすい用法についての解説

例) Don't と Never は、単に命令の強さが異なるのではなく、Don't が1回だけのことを命令するのに対し、Never は繰り返ししないように命令する。従って1回きりのことにNeverを使わない。(p.41)

(2) 形による意味の違いの解説

例) (助動詞) can は「一般的な可能性」(出来事が不定期に何回か起こる可能性)を表すのに対して、may は「具体的な可能性(出来事が特定の1回だけ起こる可能性)」を表す。(p. 121)

(3) 文法の持つ機能に焦点を当てた解説

例) (関係代名詞の) 制限用法は複数の同類のものの中からどれなのかを「絞り込む」用法、非制限用法は先行詞に情報を「付け足す」用法と考えればよい。したがって、固有名詞など1人[1つ]しかないものは、制限用法の先行詞にはなれないが、非制限用法では可能となる。(p. 310)

(4) 形式が表す感情や意図についての解説

例) How come ...? How does it come about that ...? (どうして...のようなことが起こるのか。)に由来する。理由を尋ねる表現である。Why...? より意味が強く、時には感情的な表現になるため、目上の人に使うのは避けたほうがよい。(p. 561)

『G総合』を発信力強化に生かす

文法を使えるようにするためには、その形式が使われる適切な場面(situation)を設けることが必要である。学習指導要領の「使用場面の例」などを参考に状況を設定し、『G総合』を参考に、英語の表現を考えさせてみる。

場面1) 水を1杯持ってきてほしいと依頼する場合、表現によってどのような違いがあるかを考えさせる。

- ① Can you bring me a glass of water?
- ② Can you bring a glass of water to me? (p. 60)

場面2) 食卓で家族に塩を取ってほしいと頼む。

- ① Will you pass me the salt?
- ② Would you pass me the salt? (p. 230)

場面3) 事故で骨折したことを伝える。

I got his leg broken in a tackle. (p. 237)

場面4) 窓を開けようとしている人の行為に対して苦言を述べる。

I'd rather you didn't open the window. (p. 349)

表現力をつけるには、実際に話したり書いたりした際の間違いや不適切さについて、自分で調べて気づかせることである。

例1) Can you speak Japanese? (p. 116) / Who are you? は適切な英語か? (p. 544)

例2) I would appreciate very much if you would reply as soon as possible. の間違いは? (p. 394)

例3) I'll be surprised unless he comes. の間違いは? (p. 486)

例4) According to my opinion, you should stay here. は可能か? (p. 525)

2文を比べて考えさせることもできる。

例1) I wonder if I can park here. と I'm wondering if I can park here. (p. 87)

例2) The book was sold quickly. と The book sold quickly. (p. 162)

例3) I demand that John apologize. と I demand that John should apologize. (p. 350)

例4) I did it by myself. と I did it for myself. (p. 393)

『G総合』は、意図や感情を正しく伝達するためにいかに規則を活用するかを追求する参考書である。「文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする」という学習指導要領の第1の目標を高等学校の初期の段階から意識し、英語の豊かな表現様式に触れさせて、コミュニケーションへの意欲を高めるために、「読んで味わう」参考書として、有意義な活用を期待したい。総合英語の参考書を一から黙々と読ませる指導ではなく、折に触れて読ませて学ばせるには、教師が「どこを見ればどのような情報が得られるか」について熟知している必要がある。そのためにも、教師自身がまず「読んで味わって」ほしいものである。

(やまおか けんじ・立命館大学教授)

発信力育成のために —lexical phrases を中心として—

加藤治之



発信のための文法力を構成する要素には、次の2つが含まれると思います。

1. 各文法事項が、何を表現したいときにどう用いられるかを知っていて、実際に使える。
2. 各文法事項を含む慣用表現を知っていて、実際に使える。

本稿では、『ジーニアス総合英語』（以下『G総合』）が上記2点をどのように扱っているかについて、関係詞を題材にして述べることにします。

1. について

発信に役立つためには、関係詞を次のように理解しておく必要があります。

ある名詞について節の形で具体的に説明したいときに用い、その名詞（＝先行詞）の後に置いて説明部分につなげる。

説明したい名詞→**関係詞**→説明部分
(先行詞) 節

(注) what, how, 複合関係詞など自由関係詞は別の捉え方が必要ですが、ここでは割愛します。

たとえば、「私にはアメリカ映画のことをよく知っている友人がいます」（『G総合』p.294）と言いたいときは、次のような思考の流れで英文を産出することになります。

a friend →どんな友人かという→**who** knows

a lot about American movies

かなり古い本になりますが、林語堂 (Lin Yutang) は『開明英文文法—表現の科学—』（1960、文建書房）で、母語（＝中国語）であることを表現したいとき英語ではどう表現するか、という母語→英語のアプローチをとりました。発信のための文法学習にはこれが非常に重要です。

この点、I have a friend. He [She] knows a lot about American movies.と2文を示し、共通の語句 a friend と He [She]に着目させ、2文をつなげる…という手順で関係詞を導入するのは、「はじめに英語ありき」の発想で、発信のための手法とは言えないでしょう。

2. について

関係詞 what に焦点を当て、冒頭で述べた「慣用表現」を次の3種類に分けて考えてみます。

① 成句として定着していて、文法知識に基づいて理解できるもの：

- (1) what is called
- (2) what S was [what S used to be]

これらは、関係代名詞 what の基本的知識に基づいてその意味を理解することができます。成句だからといって理屈抜きに覚えるのではなく、できる範囲で論理的に把握しようとする姿勢は、定着を促すために重要なことです。

② そのまま覚えてしまったほうがいいもの：

- (3) what with A and (what with) B
- (4) what (few [little]) ～

これらは、関係代名詞 what を用いた慣用表現

の中で提示されることが多いですが、(3)の what は、現在では partly の意味の副詞（歴史的には不定代名詞 something の副詞的対格）であり、(4)の what は関係形容詞です。そのまま受け入れた方が手取り早いでしょう。

なお、(2)と(3)について、『G 総合』には次のような発信のために有用な説明があります。ジーニアス英和辞典とのコラボの成果の一つです。

(2) what S was [what S used to be]

能力・外見などの点で現在の S と過去の S を比較するときに使う。悪い方に変わったことを表す場合が多い。(p. 320)

(3) what with A and (what with) B

文頭で使われ、好ましくない理由を表すのがふつう。(p. 321)

第3の慣用表現は、少し詳しく述べます。

③成句と呼べるほどではないものの、母語話者にとって自然な決まり文句：

(5) I'll do what I can. 「できるだけことはしてみます」→結果は保証しないことを含意

(6) She's got what it takes to be a leader. 「彼女は人の上に立つ器だ」→ what it takes to V で「V するために必要なもの(資質・才能など)」

日常的な場面では、ネイティブスピーカーは文法規則に語を充填して文を創造しているのではなく、何万という ready-made memorized combination を繰り返し用いているか、一部を変化させて用いているにすぎない、というのがコーパス言語学の知見であり、(5)は文全体が慣用表現である例、(6)は文の一部が交換可能 (what it takes to が固定部分) な例です。

田崎 (1990) は、上記のような表現を linguistic blocks と呼び、こうした表現のカリキュラム化による「会話文法」の確立が、発話のほとんど全部を構造的に（つまり文法のルールに従って）組み立てなければならない日本人にとって大いに役立つ、と述べています（『英語会話教育理論』（大修館書店、pp. 122-123））。

『G 総合』はこの点に着目し、「上手に使いたい what」というコラムを設け、③に属する慣用表現を取り上げています。そこに登場する表現の中の3つは、実は、次の英作文問題を下敷きにしました（下線部は解答すべき箇所の一部）。

1. 高校生の時、テスト期間で早く帰宅した私は、「今日の物理のテストはね、予想した問題が全然出なかったの。せっかく勉強して行ったのに損しちゃった。」（中略）父は本から顔を上げずに、「勉強というものは、そんなものじゃないだろう」とひと言だけ言った。

（神戸大学 2000年度）

2. わたしは、家具や道具はなるべく木の素材を選んでいきます。（中略）木は新品の時が発点です。年月に磨かれて、味わいも美しさも増していく。そこが一番の魅力です。

（京都大学 2004年度）

1. を You shouldn't study like that., 2. を That is the most attractive aspect of wood. としても合格点はもらえるでしょうが、次のような慣用表現を用いて表現することができます。

1. That's not what studying should be.

(what S should be 「S のあるべき姿」)

That's not what studying is (all) about.

(what S is (all) about 「S の本質、真髄」)

2. That is what I like best about wood.

(what S like best about ~ 「S が~に関して最も気に入っていること→S にとって~の最大の魅力」)

このような lexical phrases の最大のメリットは、それが pre-assembled であるがゆえに、いったん学習され定着すると、流ちょうな会話の構築に非常に貢献するということです。英語の自然さという点でも大きな意味があります。発信のための文法学習を行う上で、今後もっと注目されてよいのではないのでしょうか。

（かとう はるゆき・京都府立嵯峨野高等学校非常勤講師）

講義動画の活用で効果的な文法学習を

福崎伍郎



◆はじめに

私は、駿台予備学校、河合塾、東進ハイスクールで英語講師を勤めた後、2016年から代々木ゼミナール教育総合研究所の主幹研究員として、英語教育プログラムの開発の他、教員研修や高校生対象の講演・講義などの仕事に従事しております。

ちょうど、東進ハイスクールから代々木ゼミナールに移るタイミングで、大修館書店から『ジーニアス総合英語』の編集委員にならないかというお話をいただきました。すでに決定している委員の方々の顔を拝見しますと、大学や高校の公教育の場で活躍されている先生方ばかりで、自分のような一介の予備校講師にその任が勤まるか一抹の不安もありましたが、「何事も勉強」と思い引き受けさせていただくことにしました。

2年近くにわたり、何度も会議を重ねて、お互いに原稿を見せあって切磋琢磨しながら、原稿を書き上げ、最後は編集主幹の先生方の徹底したチェックと修正・加筆によって、『ジーニアス総合英語』は完成したのです。

◆受信と発信の両面に役立つ参考書

出来上がった『ジーニアス総合英語』を見ると、章立てなどの全体構成の点では類書との違いはあまり伝わってこないかもしれません。しかし、特定の項目を選んでじっくりと読んでみますと、英語4技能時代をリードする参考書であることがわかりいただけると思います。

私は昨年、この新しく生まれた参考書の素晴らしさをお伝えするために講演をさせていただく機

会がありました。そのときに1例として選んだのは had better の用法でした。これは、当日の参加者が必ずしも英語を専門とする方々ではなかったため、比較的単純で誰にでも分かりやすい（と思われる）事項の方がよいだろうと考えたからでした。『ジーニアス総合英語』では、had better の解説に1ページが充てられています。このたった1ページの中にどれだけ有益な情報が凝縮されているかをお話したのです。

had better の解説で述べられているポイントを列挙しましょう。

- ① had better は、日本語では「～すべきだ・した方がよい」と訳されるが、「そうしなければ悪いことが起こる」という含みがある。
- ② 特に You had better ...は、言い方にもよるが、「警告」や「脅し」の意味になるので、立場が上の人や年上の人に使うのは避けた方がよい。
- ③ You had better ...は、短縮形を使って You'd better ...と表すのが普通である。会話では、発音の軽い d が脱落して You better ...のように言うことがある。
- ④ 否定形は、had not better ...ではなく had better not ...となる。
- ⑤ You'd better ...を下降調（↘）で発音すると「忠告」になるが、下降上昇調（↘↗）で発音すると「警告・脅し」になる。
- ⑥ You had better ...は強い調子の「警告・

脅し」になることがあるので、「忠告」を表すには I think you should ... のような表現を使った方が安全である。

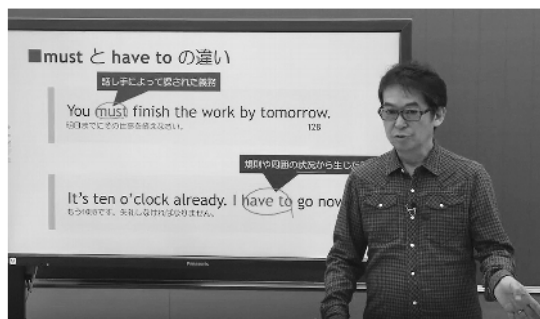
いかがでしょうか？ たった1ページに6つものポイントが解説されています。

「一事が万事」と言いますが、この1例からもご推察いただけるように、『ジーニアス総合英語』は、従来型の学習参考書と比べて、文法と語法についての解説が詳しいのはもちろんのこと、英語の4技能、言い換えれば、英語での受信と発信の両面に役立つ有益な情報 (had better で言えば②③⑤⑥) も随所に「抜きかりなく」盛り込まれている、というのが大きな特長となっています。

◆文法理解を促進する講義動画の活用

『ジーニアス総合英語』が出版されてしばらく経った頃、各章の基本編の解説を映像で収録し、ネット配信してはどうかという企画が持ち上がりました。実は、この企画を初めて口にしたのは、かく言う私だったと記憶しておりますが、編集部も大いに乗り気になり、「映像で図解などを駆使しながら、分かりやすく説明すれば、英語の苦手な高校生でも、英語の学び直しをしたい社会人も、要点がスッキリ頭に入ってくるのではないか」という意見が大勢を占めたのでした。確かに、英文法や語法を参考書だけで独学するのは時間もかかり容易なことではありません。そこに、学習の伴走役としての映像コンテンツが加われば、基礎的な事項の概要とポイントは映像を見ながら予習し、それを参考書で再確認し、基礎がしっかりと固まったところで発展的な内容の学習に移っていくことが可能になります。

問題は、どのようにして質の高い映像コンテンツを制作するかでした。会議室などでホワイトボードに板書しながら解説している姿を撮影するというような形では、(講義としての臨場感はあるかもしれませんが) 映像としてのクオリティにも



限界があり、視覚に訴えながら情報を整理してわかりやすく伝えるという映像授業ならではの長所がいかせません。せっかくやるのであれば、電子黒板などを利用しながら、プロのスタッフによる本格的なスタジオ撮影をしたいものです。そこで、私が勤務する代々木ゼミナールと協議し、スタジオとスタッフの提供を受けて、『ジーニアス総合英語』専用の映像コンテンツの制作を行うことになったのです。

映像コンテンツは、1コマ20～30分で、各章の基本編を撮影していききました。『ジーニアス総合英語』は、全部で24章ありますから、全24回分の映像コンテンツを制作することになります。

各章の基本編の内容を項目毎に整理して、一目でわかるようにパワーポイントにまとめていく。この作業だけでも、かなりの時間を要しました。しかも、出来上がったパワーポイントは、必ず編集主幹の先生に目を通していただいて、内容と表現の両面からチェックを受けて書き直す。やる以上は、しっかりとした良質のコンテンツを作りたいという編集部の熱意と意気込みがひしひしと伝わってきました。

私は、この映像講座で講師を務めさせていただきましたが、短い時間内にいかに効率よく解説するか大変苦労しました。おかげで、当初意図した以上のものに仕上がったと自負しております。『ジーニアス総合英語』の書籍と合わせてご利用・ご推薦いただければ幸いです。

(ふくざき ごろう・代々木ゼミナール講師)

決定版登場！『ジーニアス総合英語』 —コミュニケーションを支える文法をめざして

西澤正幸



ジーニアスの名を冠して

『ジーニアス総合英語』（以下、『G総合』と略記）は、語法で定評のある『ジーニアス英和辞典 第5版』（以下、G5）との密接な連携のもとに誕生した高校生向け文法学習参考書です。相当数の例文・用例はG5から移植され、文法についての明快な解説と語法についての有用な情報もその多くをG5に依拠しています。辞書を母体にして、その記述を鑑にして編集されているという点で、本書はユニークで画期的な学習参考書です。文法と語法は互いに影響を及ぼしながらことばの使い方を規定します。そう考えると、ことばのしくみの学びは文法と語法の両面から進展していくと推定されます。『G総合』からG5へ、あるいは逆にG5から『G総合』へと相互乗り入れをすることによって学習を掘り下げ広げていくことが期待できます。

万全のサポート

つながりということでは、『G総合』と *Departure English Expression I Revised* との連携も見逃せません。この教科書の指導用資料の Teacher's Manual や Teacher's Book、そして副教材の『グラマーノート』には各文法項目の横に『G総合』の対応箇所が記してあり、この工夫のおかげで授業に関連づけて指導に利用したり、学習を展開していったりすることが可能です。『G総合』はG5と *Departure* との三位一体の学習活動も視野に入れて編まれているのです。

とはいうものの、教師からの指示や部分的に授

業内外の指導があるとしても、『G総合』の実際の使用場面の大半はやはり自学自習になりそうです。その想定のもと、学習をサポートする各種の準拠教材が揃っています。テキストブック形式の『English Grammar』はレッスン数の異なる3種類があり、学習のレベルや進度に合わせて選ぶことができます。また、それぞれに対応した『English Grammar WORKBOOK』も用意されていて、文法知識の確認や定着の助けとなります。モデル文音声ダウンロードすることもできます。さらには、代々木ゼミナールの福崎伍郎先生による講義動画の視聴も可能です。暗唱例文集やフラッシュカードもあります。また、問題作成ソフトも完備されていて、至れり尽くせりです。

本書の内容と構成

『G総合』は序章にあたる WARM UP と正課24章から成り、高校段階で習得すべき英文法を過不足なくカバーしています。すべての章の冒頭には INTRODUCTION が設けられ、その章で学ぶ文法事項の基本的なイメージがつかめるようになっています。たとえば第4章完了形では、過去形の I lost my door key. と現在完了形の I have lost my door key. を対比させ、前者が「過去のある時点でドアのかぎをなくしたという事実を伝える文」であるのに対して、後者は「過去にドアのかぎをなくし、現在もなくしたままであることを伝える」文である、と書いてあります。ここまでなら他書とあまり違いありません。しかし、続けて「過去形が表すのが点なら、現在完了形が表すの

はいわば線」一言いかえると、「過去が現在とつながりを持つことを現在の視点から見た表現—それが現在完了形であり、過去から現在につながる時間軸が線のようにとらえられている」というようにイメージしやすい説明をつけ加えています。

第1章から第12章までは基本編 BASIC と発展編 ADVANCED に分かれ、BASIC には英語を理解し使うために必須の基本的で重要な知識が収められています。ADVANCED では発展的な内容が扱われます。各項目のはじめには「MODEL」の中で典型的な英文が提示され、それらの例文についての文法解説が続きます。もう一步踏み込んだ情報は「もっとくわしく」から得ることができますし、用法上で気をつけなければいけない事柄には「注意」が目を向けさせます。各節の区切りには「Check」が置かれ、そこで確認問題に取り組みます。英文の情報構造のように複数の文法項目にまたがる事柄は「FOCUS」と題して個別の章から独立したページにまとめてあります。

受信から発信へとつなげる充実のコラム

以上のように、『G 総合』は正確でわかりやすい記述を貫き、オーソドックスな構成をとりながら、随所にツボを押さえた親切な注釈を添えて、文法の理解と定着を図るように設計されていますが、何とんでも本書を特徴づけているのは100本にも及ぶコラムの存在です。これらのコラムではコミュニケーションのための文法という観点からさまざまな情報が提供されています。

「Question Box」では、英語を使う時などに誰もが抱きそうな疑問を取り上げています。一例を引いてみましょう。教室の窓を開けようとしたら ALT の先生から I'd rather you didn't open the window. と言われ、それはどういう意味なのかという問いに対して、「窓を開けないで」と言われたのだと回答した上で、この表現は話し手が聞き手の言動をよくは思っていない場合に使われ、目上の人が目下の人に使うのがふつうなので、や

や命令口調になることもあり、それほど丁寧な言い方ではない、と教えています (p.349)。

「比べよう！」では、よく似た形の英文を並べ、意味や使い方の差異について説明しています。たとえば、① I forgot. と ② I have forgotten [forget]. を取り上げて、知っているはずのことや頼まれていたことを忘れた場合は①を使う (“Did you remember that today is our mother's birthday?” “Oh, I forgot.”) のに対して、忘れてしまっと思い出せない場合は②を使う (“What was the title of the movie you saw yesterday?” “I have forgotten [forget].”) というふうに違いを示しています (p.97)。

「英語の発想」では、日本語から考えると間違えやすい英語特有の表現や発想を紹介しています。たとえば please についてのコラムを読むと、「日本語の「～してください」は丁寧な言い方としてさまざまな場面で使えますが、英語の please はどんな命令文にもつけられるわけではありません。基本になるのは、相手がその行動をすることで話し手が利益を受ける場合です。それ以外では、話し手が心を込めて相手に行動を促す時です。そのどちらでもない指示や忠告を表す命令文にはつけられません。(× Please go straight and turn left at that corner.)」とあり、単純に please イコール「丁寧」ではないことがわかります (p.41)。

「～のコツ」のコーナーでは、文法知識を実際の発信の際に活かすためのアドバイスが与えられます。たとえば、「野球の一番の魅力」は「私が野球について一番好きなこと」と読みかえれば、what I like best about baseball と表現できる、と関係代名詞 what の活用を指南しています (p.322)。

* * *

現行の、そして次期高等学校学習指導要領は、文法が「コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ」と位置づけています。『G 総合』はまさにこの要請に沿う頼れる学習参考書です。

(にしざわ まさゆき・新潟県立三条高等学校教諭)

「なるほど」がちりばめられた総合英語

森田哲生



本校の高校1年生では、文法テキストとして『ジーニアス総合英語 Lesson27』と『ジーニアス総合英語』を使用しています。語法・文法の説明が詳しい『ジーニアス英和辞典』を勧めているので、併せて新しく刊行された『ジーニアス総合英語』を選択しました。授業では主にいわゆる「厚物」のジーニアス総合英語を使って解説をしています。この1学期に「第5章 助動詞」まで終わりました。生徒には授業までに指定された範囲を読んでくることを宿題とし、授業内で解説・補足し、復習として問題演習を行うというオーソドックスな展開をしています。週2単位の授業のため、教師が話したり、ここには興味深いことが書いてあるから読んでおきなさいと紹介（飛ば）したりしています。

実際に使用して印象に残るのが、やはり語法解説とその具体的説明の量であると思います。文法ルールを一通り説明した後、「実際にはこう使うのがふつう」という補足がコラム以外の解説にも多く出てきます。自分が高校生の時に見ていた参考書にはそこまでの解説はなく（記憶がないかもしれませんが）、英語を教えるようになってから知ったような、でも高校生の時に知っていたらもっと楽しかったであろう解説から、また英語を苦手とするからこそその単純な疑問に対する解説まで様々です。この点が、英語を苦手とする生徒と得意とする生徒双方に、「そうなんだ」「なるほど」という関心を引くポイントになっているのだと思います。コラムや「もっとくわしく」などは、紹介するだけに留まることも多かったです

が、飛ばすからと言って重要でないわけではないと前置くと、生徒は結構勉強してきている様子です。決して英語を得意とする生徒が特別に多いわけではないと思いますが、それぞれのレベルの生徒の関心を引くのだと思いました。

今改めてそのポイントに付箋をつけながら再読すると、今まで見てきた参考書ではあまり見られない点が、これまでに40以上ありました。以下、第4章までで、他では見ない「そうなんだ」「なるほど」などと思わせる箇所をいくつか紹介させていただきます。

学習者に「より自然な英語」を推奨する

「第4章 完了形」のp.99の注意でアメリカ英語では have gone to ～が「～に行ったことがある」という「経験」の意味で使われることがあるが、イギリス英語では誤りとされるので、この意味では使わない方がよいという記述があります。「使わない方がよい」とまで理由をつけて書かれていることは少ないように思います。

また、同章のp.100の注意では× I've been in Tokyo since six months ago. とするのは避けた方がよく、I've been in Tokyo for six months. が自然な英語であると書かれてあります。

理屈ではあり得るけど不自然で、どうすると自然なのかまで挙げられているのは学習していて印象に残ります。

「そうなんだ」「なるほど」と思わせる

「第1章 文の種類」のp.41のコラム「英語の

発想」では、どんな命令文でも please がつけられるわけではなく、相手がその行動をすることで話し手が利益を受けたり、話し手が心を込めて相手に行動を促したりするときに使われるのが基本で、× Please go straight and turn left at that corner. のような道案内の指示の場合は please を使わないと書かれています。そして、日本語の「～してください」は丁寧な言い方としてさまざまな場面で使えるが、please には使える条件があるので、やみくもに please を使わないように注意喚起がされています。please をつけても「命令」は「命令」。そして私自身もやみくもに please を使ってきたように思います。

似た表現の違いをしっかりと解説

「第2章 動詞と文型」の pp.60-61にある「もっとくわしく」では Can you bring a glass of water to me? (A) / Can you ... for me? (B)の違いについて、(A)は to が「到着点」を表すので、水を飲むのは「私」とは限らない一方で、(B)は for が「利益」を表すので、水を飲むのは「私」である、と解説されています。to 型の動詞とか for 型の動詞といっても、日本語にしようとする区別がつきにくい生徒が多かったですが、この解説ですっきりしていたように思います。

また、「第3章 時制」の p.86にあるコラム「比べよう！」では ① I hear... / ② I heard ... / ③ I've heard ... について、①～③はほぼ同じ意味ですが、厳密には違いがあり、①は「…とうわさに聞いている」(People say ...), ②は「…と人から聞いた」(Someone told me ...), ③は「…だと人から聞いたところだ」という意味で、話し手が従属節の情報を人から聞いたばかりの時に使うと説明しています。

似た例をもう一つ紹介すると、「第4章 完了形」の p.97「比べよう！」でも ① I forgot. / ② I have forgotten. / ③ I forget. について、いずれも「忘れた」というときの表現ですが、知っている

はずのことや頼まれていたことを忘れた場合は①を使い、忘れてしまって思い出せない場合は②か③を使うと書かれています。

「そう聞いている」「忘れている」は確かに「今もそうである」のだから現在形でも表せるのが生徒たちには意外なようでした。

生徒が間違えやすいところの解説も充実

「第1章 文の種類」の p.32の注意で否定疑問文は否定の意味を強調する場合や堅い文では Is she not your sister? / Did you not go to school yesterday? のようにも言えるが× Is not she ...? や× Did not you ...? とは言えないことが書かれています。

否定疑問を短縮形にしない記述は他ではあまり見ませんが、和文英訳や整序問題での指導に有効かと思います。

また、「第4章 完了形」の p.110のコラム「比べよう！」では ① By the end of the school year, we will finish the entire textbook. ② By ..., we will have finished the entire textbook. は「学年末までにテキストをすべて終えてしまいます。」というほぼ同じ意味を表すが、②の未来完了形は堅く、日常表現としては①の〈will + 動詞の原形〉がふつうで、「完了」の意味を強調したい場合には②を使うこともあると解説されています。

過去完了を勉強すると過去表現は何でも過去完了になり、未来完了を勉強すると未来表現は何でも未来完了にしたくなる衝動が抑えられ、違いも分かりました。.

* * *

続く第5章だけでも上記分以上の「なるほど」がありました。次の学期にも、受け持つ現在の生徒たちにも楽しみにしてほしいと思うとともに、高校英語既習者がこの本を読むと、より味が出て、理解の深まりや新しい気付きと、実際使うときに少し自信を得られるように思います。

(もりた てつお・日本大学第二高等学校教諭)

効果的な学習に役立つ 『ジーニアス総合英語』特典

編集部

『ジーニアス総合英語』には、英文法の効果的な学習を進めるためのさまざまな特典が用意されています。『ジーニアス総合英語』特設サイト (https://www.taishukan.co.jp/gsogo_media/) から利用できる特典をご紹介します。

■各章の要点がわかる「講義動画」

『ジーニアス総合英語』編集委員の福崎伍郎先生（代々木ゼミナール講師）による講義動画が視聴できます。動画は全24章分あり、1章あたり20～30分。各章とも基本的事項に絞ってポイントが非常にわかりやすく説明されています。授業の予習としてはもちろん、理解の定着を図る復習用としても活用することができます。

講義動画はパソコンやタブレット・PCのみならず、スマートフォンからも視聴可能です。また、各章の動画は4つ程度のパートに分割されています。すきま時間で学習を行うのにも最適です。

なお、講義動画を視聴するには、所定のログイン手続きが必要になります。特設サイトに記載された手順に従って、ログインしてください。



講義動画の画面

■モデル文音声ダウンロード

『ジーニアス総合英語』に掲載されている各章のモデル文の音声（英語のみ。mp3形式）を特設サイトからダウンロードすることができます。各章ごとに分かれたファイルと、全24章分一括にまとめたファイルがありますので、用途に応じてご使用ください。



モデル文音声のダウンロード画面

■モデル文の定着を図れる「フラッシュカード」

「モデル文フラッシュカード」のリンクに移動すると、全24章分のモデル文が掲載されたフラッシュカードを利用することができます。



モデル文フラッシュカードのトップ画面

フラッシュカードは「英語の表示／日本語の表示選択」「英語の音声再生」など、さまざまな機能を組み合わせられるので、学習者の文法事項の定着度に応じて使用することができます。

例えば、学習の初期段階にモデル文の定着を図りたいときには、「英→日」表示にして、英語の音声を生してシャドーイングを行い、日本語で意味を確認することができます。モデル文の定着が図れたら、今度は「日→英」表示にして、日本語を見てから英語の再生を行う練習をすると良いでしょう。さらに、発展的に定着を図りたい場合には、モデル文の表示順序を「ランダム」に設定し、フラッシュカードのめくりを「自動」にすると、より難度の高い練習を行うことができます。



フラッシュカードの画面例 モデル文（上）とモデル文の日本語訳（下）

■『暗唱例文集』と組み合わせる

『ジーニアス総合英語』には採用付属品として『暗唱例文集』が用意されています。手に持ちやすい新書サイズで、モデル文と日本語訳を並べた見開き構成となっているため、手軽にモデル文の

確認をすることができます。音声を聞きながら、モデル文を確認する際にも有効活用できるでしょう。

■AR アプリで音声も動画もお手軽に！

『ジーニアス総合英語』の書籍にスマートフォンをかざすだけで、音声や講義動画を視聴することができます。

お手持ちのスマートフォンから「AppStore」または「GooglePlay」を通じて、AR アプリ「CP Clicker」をインストールしてください。

「CP Clicker」を起動して、各章の先頭ページを撮影すると、講義動画、音声、フラッシュカードなどを再生することができます。

『ジーニアス総合英語』とスマートフォンがあれば、いつでもどこでも文法学習を行うことができます。



特設ページ「CP Clicker」の利用方法

■文法学習に飽きない工夫を

音声、動画、フラッシュカードなど、さまざまなツールを利用することで、学習者は繰り返しモデル文に触れることができます。

効果的な文法学習ができるように、是非『ジーニアス総合英語』の特典を活用してください。



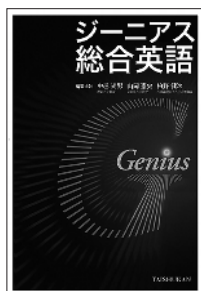
AR アプリはこちらの QR コードからアクセスできます。

大修館書店の副教材のご案内

* 定価 = 本体価格 + 税

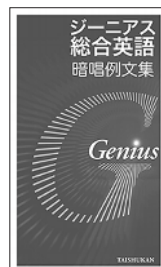
★新時代の総合英語参考書『ジーニアス総合英語』

大修館書店から新しく誕生した総合英語の決定版『ジーニアス総合英語』は、『ジーニアス英和辞典』、教科書 *Departure English Expression* と連携させれば、さらに充実した学習が可能になります。

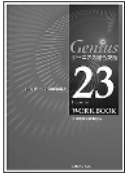


『ジーニアス英和辞典』
から生まれた総合英語の
決定版！

『ジーニアス総合英語』
(オールカラー)
A5判・656頁 本体1,500円



付属品
『暗唱例文集』

準拠テキストブック	ワークブック
 高校英文法の基礎～発展をカバー 46 Lessons (2色刷) B5判・136頁＋解答解説 (PDF にて提供) 本体620円	 基礎～発展まで徹底練習を！ 46 Lessons B5判・96頁＋別冊解答解説書 本体540円
 高校英文法の重要項目をこの一冊で 27 Lessons (2色刷) B5判・136頁＋解答解説 (PDF にて提供) 本体620円	 反復練習で知識の定着を！ 27 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体540円
 高校英文法の基礎的な項目を精選 23 Lessons (2色刷) B5判・128頁＋解答解説 (PDF にて提供) 本体600円	 反復練習で基礎固めを！ 23 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体540円

★充実した指導用資料と教材で、英語学習を強力サポート

- ・大修館英語テストエディター…モデル文の定着を図る自動問題作成用ソフト。
- ・暗唱例文集…モデル文暗唱用の小冊子。

*『ジーニアス総合英語』特設サイト (https://www.taishukan.co.jp/gsogo_media/) から以下の特典がご利用いただけます。

- ・講義動画…代々木ゼミナール講師の福崎伍郎先生による講義動画。
- ・音声ダウンロード…モデル文の音声。
- ・モデル文フラッシュカード…モデル文のフラッシュカード。

◎編集主幹 中邑光男 (関西大学教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員)

山岡憲史 (立命館大学教授・*Departure English Expression* 編集委員代表)

柏野健次 (大阪樟蔭女子大学名誉教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員 [語法])

◎編集委員 加藤治之／富永 幸／福崎伍郎／吉田健三／北野マグダ・レーナ／ほか1名

◎英文校閲 Lance Eccles (『ジーニアス英和辞典』英文校閲者)

2019年春、辞書がもっと楽しくなる
新サービススタート!

JISHO
SUPPORT

ジショサポ

辞書をひきたくなる
工夫満載!

大修館書店の学習辞典を買うと、
無料の **動画** × **ドリル**
アプリサービスが付いてくる!

確認ドリルもあるよ!

動画の例

ジーニアス英和 × ジショサポ

「めあての語義の見つけ方」
「記号の意味と活用法」
「センター入試を辞書で解く！」など、
英語の底力がつく辞書引きのコツを伝授!

ベーシックジーニアス英和 × ジショサポ

「どんな単語も5秒で引ける!」
辞書の早引きテクニック」
「英語らしい発音を手に入れるには?」など、
辞書引きを初めの一步からサポート!

さらに!

巻頭カラー口絵ページにスマホをかざすと、
会話音声やフラッシュカードへアクセスできます。

『ジショサポ』アプリの使い方

- 1 App Store、Google Playで
「ジショサポ」を検索しダウンロード
- 2 アプリを起動、アプリ内の
カメラマークを押す
- 3 辞書の扉ページにスマホをかざして
コンテンツへアクセス!

▼ 詳しくは特設サイトで!

<https://www.taishukan.co.jp/jishosapo/>



2019年3月
グランドオープン!

社会人のための 英語の世界ハンドブック

酒井志延・朝尾幸次郎・小林
めぐみ 編

B5判・196頁
本体2,200円＋税

[評者]

赤池秀代



今欲しい英語の情報が満載

こういう本が欲しかった、と思う人があちこちにいるだろう。中・高生向けのものはいくつかあったが、大人向けの、これほど豊かで深い情報が満載のハンドブックはなかったと思う。

このハンドブックは6章にわかれている。第1章「英語圏の国々を知ろう」、第2章「英米の生活を知ろう」、第3章「英米の文化を知ろう」、第4章「英語の広がりを知ろう」、第5章「ことばとしての英語を学ぼう」、第6章「英語の使い方を学ぼう」。各章末に異文化理解に関する多様なコラムが用意されている。

自分の興味ある分野を読むのもよし、知らなかった分野の知識をざっくり得るのにもよし、さまざまなコラムでトリビアの知識を身につけるのもよし。いつでも誰でも楽しめ、生涯横に置いて学べる。

私個人が特に気に入ったところをいくつか挙げる。

①(p.17)「インディアン」という語は使用しないように気を付けていたが、この語がもつイメージが変わってきているという。最近のアメリカ先住民は、白人による収奪の歴史を記憶するためにも「インディアン」を積極的に使うそう

だ。やはり最新情報を知ることが大事だ。

②(p.137)発音記号 / / と [] の違いこの部分を読んで、ほんと安心した。両者の違いをわかりやすく解説してくれ、さらに、区別にこだわらなくてよい、と学習する際の負担を減らしてくれる。

③(p.129)国際的にみた日本人の英語能力に関して、「そうだ!」と思わず声が出たのは、「日本人の英語能力の低さを、とかく英語の教育技法の問題と考えがち」という箇所だ。

④(p.121) Estuary English (河口域英語) という最近知った語を見つけた。新しい情報は貴重だ。自分ではなかなか集められない。

唯一の不満は、情報が英米に少々偏っていることだ。日本で英語を学んだ後、実際に英語でコミュニケーションをとる相手は英語圏の人でないことも多い。ネイティブスピーカーでない人たちとのコミュニケーションの際の注意点にも興味がある。

「社会人のための」となっているが、中学・高校の生徒にも大いに役立つことだろう。「聖書」「ギリシャ神話」「シェイクスピア」「マザーグース」「ジョーク」「迷信」など英語に関する圧倒的な量の背景知識が凝縮されており、何十年も英語の世界探究の友となってくれるだろう。

このハンドブックを手にした読者は、さらに英語に関心をもち、英語の世界を広げたいという気持ちになるだろう。私もそのひとりだ。隅から隅まで読んだ。素晴らしいハンドブックに出会えた。

(あかいけ ひでよ・文教大学・
花咲徳栄高等学校講師)

動詞の「時制」が よくわかる英文法談義

宗宮喜代子・糸川健・
野元裕樹 著

四六判・192頁
本体1,500円＋税

[評者]

藤田義人



動詞の「時制」が“本当に”よくわかる一冊

近年、英文法が苦手(?)な若い英語教師が増えているという噂を聞くが、それでもおおむね英語教師であれば英文法に興味をもっているだろう。評者も英文法は好きなほうで、これまで文法書は様々読んできたのだが、本書を読んでこれまでモヤモヤしていた考え方がだいぶすっきりした。

例えば、「相」と言えば、評者は完了相と進行相を思い浮かべるが、本書を読むまで「単純相」という考え方は持ち合わせていなかった。また「法」については、本書で示されている「仮定法現在」の考え方が評者には新鮮かつ納得できるものであり、今後の指導に即採用しようと思った次第である。

本書は2部構成で、それぞれに3つの章がある。第1部では「時制と相」を扱い、現在時制と過去時制、単純相・完了相・進行相について詳しく説明している。第2部では「法と時制」を扱い、仮定法・直説法・命令法にそれぞれ1章ずつ割り当てている。

本文は大学3年生の健斗とゼミ指導教員の高橋先生との対話形式で書かれており、健斗が読者の気持ちに代弁してくれるように話が

進み、その意味で読みやすい（ただし、健斗が「優秀すぎる」気がしないでもない）。また例文も豊富であり、関連する文法事項や日本語と対比させながら説明してあるのでわかりやすい。英語史に言及した説明も読者を納得させる。さらに話が一定程度進むと【健斗のメモ】と称して簡単なまとめが書かれているので、その都度その章の流れを確かめながら読み進めることができる。

加えて、章の終わりには世界の言語を紹介するコラムが挿入されており、マレー語やタガログ語などの紹介を通して英語や言語一般の理解がさらに深まるような工夫がなされている。

以下に評者が興味をもった目次の見出しをいくつか挙げる。もし読者の皆さんも興味をもたれたら、是非本書を手にとってもらいたい。

- ・話者は「現実」と「現在」から逃げられない
- ・事態を外から見ると——単純相・完了相
- ・進行相と物質名詞は実は似ている？
- ・現実に基づかない非現実を表す——仮定法現在
- ・直説法なのに現実を表していない？
- ・なぜ命令法と仮定法現在に動詞の原形が使われるのか

1つだけお願いがある。本書では「態」については扱われていないが、時制・相・法について優れた説明をしている著者陣である。続編があるのであれば「態」を取り上げてほしい。

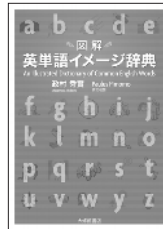
（ふじた よしひと・昭和学院秀英
中学校高等学校 常勤講師）

【図解】 英単語イメージ辞典

政村秀實 著 Paulus Pimomo
英文校閲

B6判・738頁
本体3,200円＋税

〔評者〕
阿部 一



イラストからイメージがわく楽しい辞典

現在、多くの教師にとって語彙指導はなかなかいい方法がないというのが本音だろう。教師によっては、語源を使って形態的な特徴にフォーカスを当てる方法や連語（collocation）をうまく生かす方法、あるいは特に基本語にフォーカスを当ててコア的なアプローチを試みる人もいる。しかし、本格的で積極的な「語彙指導」は今のところ未開拓の分野といっているだろう。生徒にとって語彙力の増強は切実な問題であると同時に負担でもある。それを少しでも軽減させるために単語とその語義とのつながりをわかりやすく提示するなどの工夫を多くの人が重ねてきた。本書の著者は、早い段階から英単語の学習に図や絵を上手く使いながら、効率のよい単語学習や指導を考え、かつ実践されて来られた方である。

単語をイラスト化するというのは、子ども用の絵本などでは昔からあるが、それはあくまで具体的な名詞やわかりやすい形容詞、あるいは描きやすい動作動詞といったものであり、単語全体として扱うものはほとんどなかった。それは、単なる思い付きや感覚だけではうまく行かず、きちんとした裏

付けがある程度必要とされるからである。

本書は1,416語の重要語を取り上げ、それぞれの語義イメージをイラストで表し、それに単語の原義から現在使われている主要な意味に至る過程を簡潔に説明し、そのイメージがわかりやすい高頻度の用例を載せたものとなっている。たとえば、わかりやすい例を挙げると、「押す」に当たる英語の代表的な動詞に press と push がある。本書で見ると前者では「押しつける」、後者では「密着して圧力を加える、前へ押し進める」という説明にピッタリ合ったイラストを提示しているので、とても差異化がしやすくなっている。ただ、著者も述べられているように、ピタッとはまるイラストをすべて載せるのは至難の業で、特に、抽象性の高い語義や用法は展開しにくい感じがあるといえる。そういった制約などはあるものの、すべての見出し語に語義イメージ画を与えているのは壮観で、見て楽しくかつ読みやすいのは大きな利点だろう。

今後も、学習者がパッと見たイメージを元に、特定の単語の意味（語義[sense]ではなく meaning）を把握できて、その単語を理解し、使いこなし、使い切ることを支援するガイドブックや辞典などは続いて出てくるであろう。その場合の鍵はイメージ画の扱い方と、適切かつ新鮮で生きのいい用例をどう揃えるかだろう。この辺りの見極めはとても難しく、本書のような試みは今後とも引き続きなされることになると思われる。その意味でも著者の先駆的な労作には敬意を表したい。

（あべ はじめ・英語総合研究所所長）

大修館書店の本

◆リスニング力向上のための指導法を徹底解説

英語リスニング指導ハンドブック

鈴木寿一・門田修平＝編著

(A5判・402頁・本体2,900円＋税)

◆待望の4巻ついに刊行！ 認知文法論の基本図書

シリーズ認知言語学入門 4 認知文法論 I

西村義樹＝編 池上嘉彦・河上誓作・山梨正明＝監修

(A5判・298頁・本体2,400円＋税)

◆「指導法」「英語の専門的知識」両面をカバー

コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識

村野井仁＝編著

(A5判・240頁・本体2,000円＋税)

◆人工知能が超えられない人の「知」と「学び」とは？

AIに負けない「教育」

渡部信一＝著

(四六判・210頁・本体1,800円＋税)

◆「議論」はクリエイティブな協同作業

議論学への招待

——建設的なコミュニケーションのために

F. H. ファン・エイムレン・A. F. スヌック・ヘン

ケマンス＝著 松坂ヒロシ・鈴木健＝訳

(A5判・256頁・本体2,700円＋税)

○

お知らせ

○

小社英語教科書についての質問、ご感想などを小社編集部宛にお寄せください。「G.C.D. 教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿（郵送のみ）をお待ちしております。（採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。）

なお、小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<https://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

営業便り

▶現在、小学校6年生の息子がミニラグビーをしております。小学生のミニラグビーは、高学年におきましては、1チーム9人で試合を行います。15人制のラグビーと同じようにタックルもあれば、華麗なパス回しによる展開もあり、迫力とプレーの質の高さに感心しております。その試合のビデオを見ながらお酒を飲むのが楽しみの一つでもあります。▶もう一つ感心したことがあり、練習や試合の後に課題と次の目標を自分でノートに記入しています。きっかけこそコーチからのものですが、その後は自身のレベルアップを目指し、毎回記入しているようです。基礎をしっかりと身に着け、それを試合で活かす。自分で考えて繰り返すことにより、プレーの質、幅が広がっているのは確かです。▶英語の学習においてもまずは、基礎となる文法をしっかりと身に着け、それを使いこなしながら4技能を高めてゆくものと思います。▶営業便りまでお読みいただいたのも何かのご縁かと存じます。ぜひ、基礎となる文法を定着させるための相棒に『ジーニアス総合英語』をご検討いただけましたら幸いです。何卒よろしく願い申し上げます。（町田営業所 山形隆宣）



編集後記

▶豪雨、台風、そして地震とこの夏は各地で自然災害が発生いたしました。被災された地域の方々の一刻も早い復興を願っております。▶娘が中学生になり、英語の授業が始まりました。ネイティブの先生の授業があったり、ICレコーダーを活用していたりして、さすが今時の授業は違うなあ、と思う一方、家に持って帰ってくる宿題を見ると、文法的なドリルなどが多く、逆にほっとしたりもしています。▶文法の学習が英語嫌いを増やすという議論もあります。しかし、ネイティブではない以上、本当は文法を学ぶことが英語上達への近道となるのではないかと考えています。▶『ジーニアス総合英語』は『ジーニアス英和辞典』の強みである文法・語法解説を高校生向けにぎゅっと凝縮する形で生まれました。まさに英語学習の「近道」をわかりやすく教えてくれる参考書であると言えるでしょう。皆様のお役に立てれば幸いです。（純）

Genius・Compass・Departure

英語通信

第62号

2018年11月1日発行

（年2回発行）

編集人：「G.C.D 英語通信」編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話 (03) 3868-2292 (編集部) / (03) 3868-2651 (販売部)

【出版情報URL】 <https://www.taishukan.co.jp> 【振替】 00190-7-40504

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕